

銅・アルミ

市況見通し

2月

銅

昨年12月の伸銅品生産(速報値)は、前年同月比で2・4%減の

5万1940ト。2カ月前連続での前年同月比が同48・5%増の1万1859トだった。

銅スクラップ景況予想

1月の電気銅建値は、月初の143万円

・7%減の4万7300トで、うち国内が同11・7%減、輸出が同9・6%減だった。

銅輸出は、電気銅が

同13・7%減の4万1035ト、銅スクラップが同35・9%減の2万5993ト。

銅輸入は、電気銅が同531・8%増の1



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

2月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8500~9500 ^{ドル}	弱い
電気銅建値	131~156万円	弱い
為替(1 ^{ドル})	150~160円 (1カ月間T/M)	円高

が中旬には148万円響もある。LME銅相場へ上昇したが、下旬に場は、一時的な急落のは再び144万円まで可能性もあり得る。下落した。流通(一次「日米首脳会談」問屋)の1月在庫は、(2月7日に開催予定)伸銅品の正月休暇による生産減および発生減により品薄だった。長期在庫分は相場の急落により、売らず買えずのこう着状態となった。メーカーは材料難の状況。トランプ関税による影響で様子見となっている。

アルミ

LME銅・為替予想

今月は「米・トランプ大統領の関税政策」と「日米首脳会談」に左右される。「米・トランプ大統領の関税政策」では、コロンビアに続きメキシコ、カナダそして中国と交渉中。あくまで交渉材料の一環だが、各国の対応によっては交渉の長期化や世界経済への影

連続のマイナス。アルミニウム二次合金・同合金地金出荷は同9・3%減の5万5384トで5カ月連続のマイナスだった。輸出はアルミニウム新地金が同18・3%増の309ト、アルミニウム二次合金が同15・8%減の668ト、アルミスクラップが同5・3%減の3万3641ト、アルミ缶が同18・1%増の6376ト。輸入はアルミニウム新地金が同41・5%増の10万9285ト、アルミニウム二次合金が14・5%増の10万509ト、アルミスクラップが同65・5%増の983ト、アルミ合金スクラップが同16・7%減の7261トだった。

アルミスクラップ景況予想

2月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2400~2700 ^{ドル} (現物後場買い)	横ばい
スクラップ	据え置き~プラス10円 (前月最終価格より)	強い

LME価格は2月516ドルから2617ドル台と上昇局面だったが、円高で相殺される形となった。このため流通(一次問屋)は、特に変わらなかった。メーカー在庫は、自動車生産の減少やトランプ関税による先行き不透明感が影響しそうだ。需要家はアルミスクラップを積極的に買わないのではと見て